自由進度学習はじめの一歩～学習者が自律的に学ぶ姿を求めた3年間～

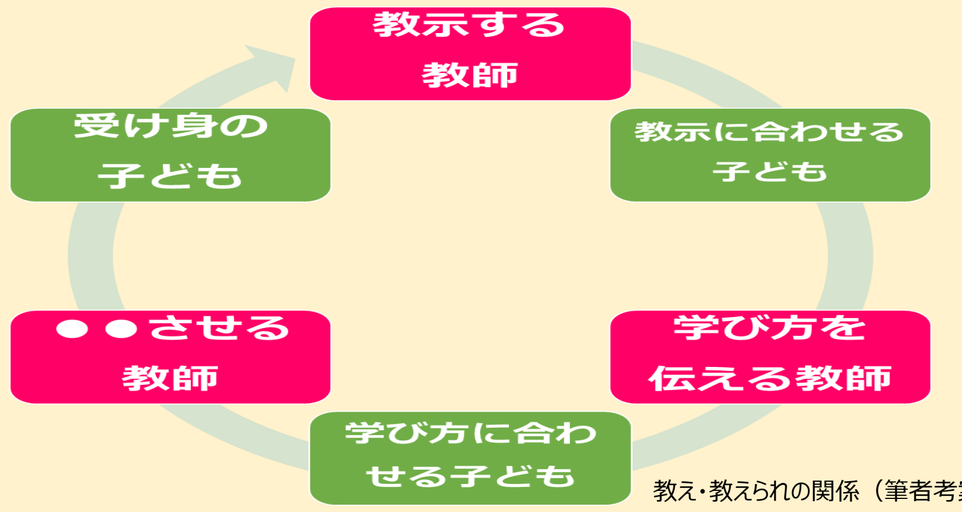
千曲市立五加小学校　蟹澤和哉

1. 研究のはじまり

●本校で語られる子どもの姿
学校教育目標「自主・自律」の力を高めたい
言われたことはしっかりやるが,受け身である

●「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実（文科省2021）
指導の個別化・学習の個性化
可能な限り学びを子どもに委ねる(奈須2022)

●信州大学教職大学院での学び
「教師の授業」に子どもたちは付き合っている」という
伏木久始教授の言葉



教え・教えられの関係（筆者考案）

生き生きした一人学びと寄り添う教師（スウェーデンでの海外実習）
「I respect all children. Respect is very important.」(恩師Camila先生)

2. 目的

自由進度学習に挑戦し,個の学び・友と協働する学びの環境を整え,子どもたちの幸せにつなげること

竹内(2019)が示すように,自由進度学習を「教科の一人学び」と定義した。教師が計画する学習内容の枠の中で,子ども一人一人が課題を自己決定し,計画を立てて自分の学習を進め,その過程で友だちと関わりながら,学びを深めることを目指すものとした。

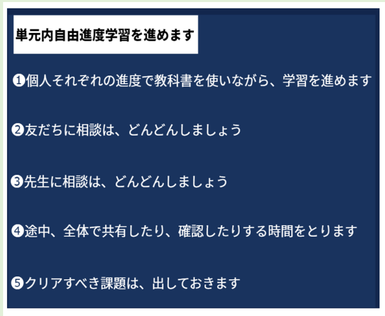
3. 方法

●先行研究をもとに教材研究および授業実践
●期間および対象　R3.7月～R5.7月末　担任した学級児童および同学年児童(R3・R4は本学級児,R5は6学年2学級)

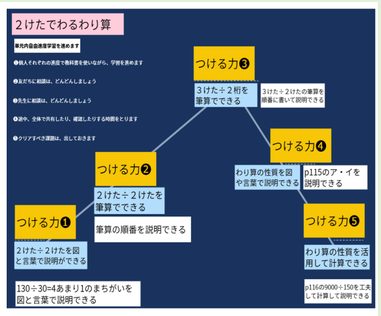
4. 実践

Ⅰ期 2021年 7月　4年算数「2けたでわるわり算の筆算」

単元の流れ・つける力を共有し,教科書を活用



戸惑う子・ワクワクする子



教科書に沿っての単元展開

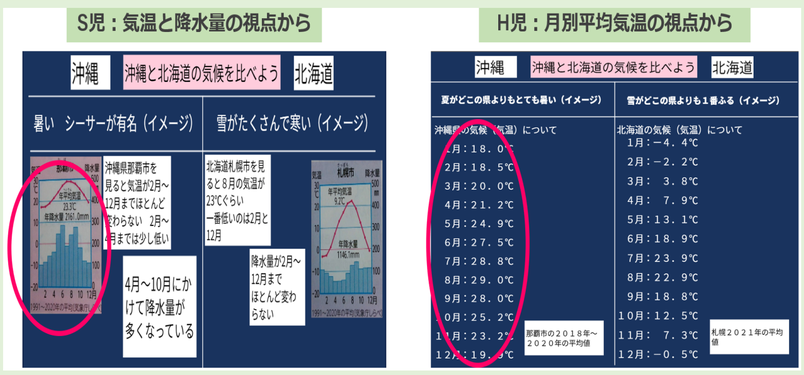
●家庭学習に「けテぶれ」（葛原2019を参考）

計画に合わせた**独学力**を磨く

成果	○個々に学ぶ環境を整えられた ○個に寄り添う環境ができた ○自己学習力を育む家庭学習になった
課題	▲一人で学ぶことに対する不安が生じた ▲保護者は導入に不安を感じていた様子 ▲保護者とのコミュニケーションが必要
省察	**一人で学べる環境を整える必要** ・一人学びへの不安感を理解が必須 ・個別や学び合いの場面を意図的に仕組む ・保護者の理解を得る発信の必要性

Ⅱ期 2022年 9月　5年社会「あたたかい・寒い土地のくらし」

●単元の一部を自由進度学習・友と関わる場を設定

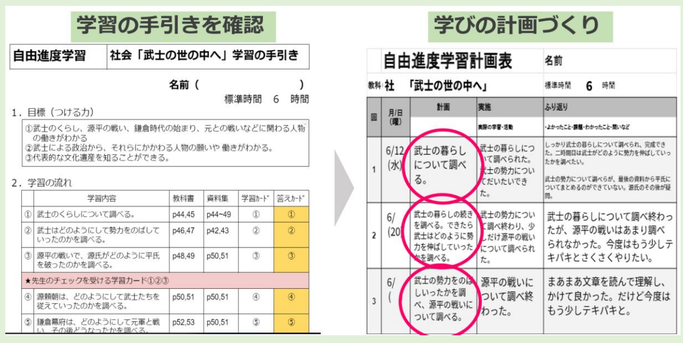


●友だちと異なった視点で話し学び合う

成果	○繰り返しの学校から情報発信ができた ○議論により,学びが深まった ○アプローチを選択して学んだ
課題	▲待たされる子や周囲に焦る子がいた ▲扱う内容やつける力の精選をすべき ▲指導書に頼る単元展開となった
省察	**友との学びは個の学びを深める一助** ・一人で学ぶ経験は,自己学習能力を強化 ・集団思考は,個の学びを深める ・個の学びと学び合いの選択可能な設計

Ⅲ期 2023年 5～7月　6年社会「武士の世の中」算数「分数のわり算」の2教科同時
算数「資料の調べ方（まとめ）と図工「音のする絵」の2教科同時

●４つの段階（ガイダンス→計画→追究➡まとめ）（竹内2019）**で構想**



●「今どこシート」で経過を共有

成果	○前向きな自己選択による学びが展開 ○「学びの途中」の把握で子ども理解が促進 ○保護者から家庭で学ぶ姿を認める声
課題	▲わくわく感とこれまでと同様の不安感 ▲自己決定する一人学びの支援のあり方 ▲教材研究および準備の時間の確保
省察	**個の学びを支える協働の学び** ・友の言葉だからこそ、理解が進む ・友との協働が自己の学びを促進 ・学びを適切に支える教師の観察が重要

5. 実践を通して

（１）学校としての取り組み

●「自分も幸せ みんなも幸せ」な五加小を合言葉に,**「立ち止まる➡考える➡動く➡ふりかえる」**のサイクルで子どもも職員も生活し,学校教育目標の具現化を目指した。子どもの学びと教師の支援のあり方を再考してきた。

●プロジェクトが立ち上がり, 5年後の目指す子どもの姿から五加スタイル構築の議論が進んだ。**「知る➡やってみる➡見合う➡次へつなげる」**の段階で自由進度学習を構想し,校内でも実践にチャレンジする学級が出てきた。

（２）全国学力・学習状況調査より（全国・県平均比）

上回る
- 条件に合う事柄を読み取る（データ活用）
- 目的に応じて、自分の考えを書く（B書くこと）

上回る
- 友だちとの話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる
- 人と違う意見について考えるのは楽しい

大きく上回る
- 学校に行くのは楽しい
- 人の役に立つ人間になりたい

学びに充実感をもち、自己有用感北島（1999）を高めた

（３）自由進度学習における子どもの学びと教師の支援（筆者考案）

自由進度学習

子どもたち	教師
学びを自分で決定	どのように学ぶか構想
自分のペース	個と協働の学びの見守り
子ども同士の聴き合い	アップとルーズで見る
自己評価の繰り返し	学びを励ます支援

安心・安全で良好な人間関係が保障された環境

6. 今後に向けて

①どんな子どもを育てたいかの共有　②子どもたちが学ぶとは,どういうことかの議論　③目指す教師像の共有

参考文献・先行研究
・文部科学省(2021).「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す,個別最適な 学びと,協働的な学びの実現～(答申)　・奈須正裕（2022）.個別最適な学びの足場を組む
・竹内淑子(2019).教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方　・蓑手章吾(2021).子どもが自ら学び出す! 自由進度学習のはじめ方　・葛原祥太(2019).「けテぶれ」宿題革命！-子どもが自立した学習に変わる-
・ダグラス・フィッシャー,ナンシー・フレイ著,吉田新一郎訳(2017).「学びの責任」は誰にあるのか　・北島貞一(1999).自己有用感-生きる力の中核-